

夢は変わるもの 夢

～ウィルドアの杉浦さんに聞きました～



一般社団法人ウィルドアは高校生が自ら自分のやりたい事を見つけ、自ら活動できるように支援している団体です。

東京都教育委員会では、一人一人が社会的・職業的に自立できるようにするため、都立高校の教科「人間と社会」の授業、都立特別支援学校の授業や放課後活動などに対して、学校のニーズに応じて、企業やNPOなどの教育支援プログラムを活用するための支援を行っています。

ウィルドアでは一人一人が、“自分”と“社会”と共に生きられる未来を目指して、高校生自らが自分の将来について考えられるような事業を行っています。団体は平成27年に設立され、これまで

で数多くの活動を行ってきました。これまでの活動や事業を通して感じたことについて、ウィルドアのメンバーの一人である、杉浦さんにお話を伺いました。

ウィルドアに出会うまで

私は、自分の人生の転換をきっかけにウィルドアに勤めることになりました。高校生の頃、私はすごくのびのびと過ごすことができ、自信をもち、自分のやりたいことができたことから、先生に強く憧れていました。

大学生になった頃、私は本当に先生になっていいのかという迷いが生まれました。確かに、大学では先生になるために必要な知識や経験を得ることができましたが、同時に、長時間労働などの先生の苦しい実態も知りました。その結果、このまま就職して学校の先生になるか、大学院へ行ってより詳しく勉強するかという2つの進路で大きく悩みました。そして私は大学院へ行く道を選びました。

しかし、私は半年で悩んで決めた大学院を休学し、NPO法人の活動に参加し、福島へいきました。その時私は、学校の先生という方法以外で生徒と関わりました。この経験で私は教育にいろいろな関わり方があるということを知ったのです。そして、私は自分が自信をもって将来の進路を決められたように、今の高校生も自分で納得できる将来を選んでほしいと思い、ウィルドアで教育に携わることにしました。

プログラムを作る際に気を付けていること

私たちがプログラムを作るときに気を付けていることは、高校生が何を考えているのか、高校生がこのプログラムをすることでどのように変わっていくのか想像したうえでプログラムを作ることです。

また、悩みや迷い、違和感というものは、これからの自分自身のタネになるものです。そのため、一人一人に寄り添ってサポートをしたり、悩みや意思を尊重して一緒になって考えてあげたりするなど、高校生が自分で考えることができるようにすることで、自分に自信が持てるようになります。

これらのプログラムは、自分のありたい姿を見つけることを主な目的としていますが、一方で、在りたい姿がなくてもいいということや、そのようなことで悩んでもいいということを教える場でもあります。

今はコロナ禍で、人と人が直接話すことが難しい時代ですが Zoom などを用いてワークショップを開いてプログラムを行うことで、現地に来られなくても参加できるというオンラインの長所を生かして全国の人と話し合うことができる環境を整えています。

プログラムを体験していただいた高校生からは、感謝や「大人になるのが楽しみになった」などのポジティブな意見が寄せられていて、うれしい一方でこれからどのように変わっていくのが楽しみです。

ウィルドアのこれまでの活動

ウィルドアはこれまで、様々な活動に取り組んできました。

その中の一つにワンダリングチャレンジがあります。ワンダリングチャレンジとは3人1組のチームで、日常を舞台に、決められた期間で様々なミッションに挑み、クリアできたミッション数などを競い合う大会で、チーム対抗の体験型ゲーム・イベントです。ミッションには「一人は目、一人は耳、一人は口をふさいだ三人一組でお題に挑戦する」など、必ず全員が協力しないと上手くいかないミッションがあり、どのミッションも「プラスチックを使わず、かつ触れずに24時間過ごす」など、

学びにつながるような内容になっています。また、大会ごとに賞品・賞金が用意されており、モチベーションを保てるようになっています。

ウィルドアは、ほかにも、全国高校生マイプロジェクトアワードや、MAKERS UNIVERSITY U18などのプログラムの企画・運営をし、「私から始まる学び」を世界に届けています。



今後の活動について

コロナ禍で、生徒も学校も大変な苦労があったと思います。しかし、コロナ禍だからこそできるようになったこともたくさんあると私は考えているのです。

例えば、オンラインを使った取り組み。本来ならば会うのが難しい人同士でも、インターネットを通じてつながることができる、いわばコロナ禍だからこそ発達したコミュニケーションツールです。これによって、我々もこれまで行くことのなかった地域に活動領域を広げ、より多くの高校生と交流をすることが可能となりました。

このように、ウィルドアが従来行っていた活動に、今だからこそできることを取り入れ、より良い“willdoor”を形成していきたいです。

中学生・高校生へのメッセージ

私は自分の可能性に見切りをつけてしまう10代を減らしたいという思いを持っています。悩んでいることや迷っていること、ちょっと違うと思ったことなどひっかかることを無理やり自分の中で納得させないでほしいです。ひっかかることは人生のタネとなって想定外の自分に出会わせてくれることもあります。だからこそ、少しでもひっかったことは大切にしていってほしいです。

最後に将来の夢は決まるものではなく変わるものだと思います。今、自分自身のありたい姿を持っていない高校生も、持っている高校生にも共通して伝えられることがあります。それは、未来についてわかることは“未来は何が起こるか分からない”ということですので。未来についての可能性を広げていくためにも、身の周りに目を向けてみてください。意外と身近なところに自分のこだわりが隠れているのではないのでしょうか。